本書は〇〇六年に出版された著者の博士論文「ムージルと生命の樹」が再版したもので、その内容は次の通りです。

一章では、ムージルの思想における「生命の樹」の意義を紹介し、この概念がムージルの思想の中心テーマであることを示す。また、ムージルの思想における「生命の樹」の具体性を示すために、具体的な例を挙げています。

二章では、ムージルの思想における「生命の樹」の現象を考察し、この現象がムージルの思想の中心テーマであることを示す。また、ムージルの思想における「生命の樹」の具体性を示すために、具体的な例を挙げています。

三章では、ムージルの思想における「生命の樹」の構造を考察し、この構造がムージルの思想の中心テーマであることを示す。また、ムージルの思想における「生命の樹」の具体性を示すために、具体的な例を挙げています。

四章では、ムージルの思想における「生命の樹」の意味を考察し、この意味がムージルの思想の中心テーマであることを示す。また、ムージルの思想における「生命の樹」の具体性を示すために、具体的な例を挙げています。

總而言之，ムージルの思想における「生命の樹」の意義、現象、構造、意味を考察し、この概念がムージルの思想の中心テーマであることを示すとともに、ムージルの思想における「生命の樹」の具体性を示すために、具体的な例を挙げています。
NII-Electronic Library Service
学に對する理解の深さから、些細な事であっても、本書のもつ価値は減じずである。ムージーク詩学の本質を捉えるうえで、ムージーク研究者のみならずモデルネーブル文脈を研究するには必読の書である。

（松籟社二〇一一年）